

2025年「おやじの山旅」10周年記念
スイストレッキング
(2025年7月15日～7月27日)



ステリゼー湖 2537m (7月19日 9時40分)



エーデルワイス



1.趣旨

長年デンゾー山岳部で活動した仲間達が定年を迎えた。
その仲間達で2016年におやじの山旅を立ち上げた。
かけがえのない仲間達でこれからも山を楽しみ続けたい。
今年は、節目の10年目。10周年記念で海外トレッキングに挑戦した。

2.コンセプト

山を通して自然・郷土料理、現地の人とのふれあいを楽しむ。

3.計画

山域・山名 ヨーロッパ・スイストレッキング

プレバン展望台、エギュードミディ展望台、ゴルナーグラート、
オーバーロートホルン、ヘルンリ小屋、シュバルツゼー展望台、
アレッチ氷河、フィルスト→バッハアルプゼーへのハイキング、
ユングフラウヨッホ

期間 2025年7月15日(火)～7月27日(日) 13日間

参加者と役割分担

No.	氏名	役割・担当	担当内容	トレッキング担当リーダー(個別報告書作成)
1	町田 修	リーダー	トレッキング全体の責任者・渉外	7/20 ヘルンリ小屋 7/21 シュバルツゼー展望台 7/23 メンリッヘン→クライネシャイデックトレッキング
2	金子 清	食事・食糧	外食時のレストラン決め、行動食、JPからの持込食糧の提案	7/17 エギュードミディ展望台
3	町田 明美	食事・食糧		7/16 プレバン展望台(ガイド付)
4	津田 利栄子	通訳	移動時やホテルでの通訳対応	7/24 フィルスト→バッハアルプゼーへのハイキング(ガイド付)
5	上田 正博	通訳		7/25 ユングフラウヨッホ
6	藤田 勝啓	植物・記録	記念写真、高山植物	7/19 オーバーロートホルン(ガイド付) 7/22 アレッチ氷河(ガイド付)
7	津田 廣一	記録・報告書	報告書の編集、作成、発行	7/18 ゴルナーグラート
8	鈴木 浩子	アドバイザー	プランニングサポート	
9	竹内 幹雄	JP緊急連絡先	安全な旅の啓蒙	

スケジュール(概要) *現地で変更した内容で記入

	2025年 月/日	移動工程・トレッキングコース	担当	宿泊先
1	7/15 (火)	名古屋駅～関西空港～ドーハヘ		(機内)
2	7/16 (水)	～ドーハ空港～ジュネーブ空港～シャモニー (ガイド 神田) プレバン展望台 (レ・フレジェール→プラン・プラ中間駅)	町田明美	シャモニ
3	7/17 (木)	シャモニ観光 (エギュードミディ展望台、中間駅付近散策、水晶博物館等)	金子	シャモニ
4	7/18 (金)	シャモニ～ツエルマット移動 (専用車) ゴルナーグラート展望台～ローテンボーデン～リッフェルベルク	津田	ツエルマット
5	7/19 (土)	ブラウヘルト～スネガトレッキング & ツエルマット観光 (ガイド 千葉)	藤田	ツエルマット
6	7/20 (日)	ヘルンリ小屋 (トロッケナーシュテック→ヘルンリ小屋～シュヴァルツゼー)	金子	ツエルマット
7	7/21 (月)	休息日 (3グループに分かれて行動) ツエルマット～ベッテン～ベットマーハルプ		ベットマーハルプ
8	7/22 (火)	ベットマーハルプからアレッチ氷河観光 (ガイド 千葉)	藤田	ベットマーハルプ
9	7/23 (水)	ユングフラウヨッホ (ベットマーハルプ～ユングフラウヨッホ～グリンデルワルト)	町田	グリンデルワルト
10	7/24 (木)	フィルスト～バッハアルプゼー往復 & ボルト～グリンデルワルトハイク (ガイド矢鳴)	津田利栄子	グリンデルワルト
11	7/25 (金)	アイガートレール (アイガーグレッチャー→アルピグレンハイキング メンリッヘン→クライネシャイデックハイク)	上田 町田	グリンデルワルト
12	7/26 (土)	グリンデルワルト～チューリッヒ空港～ドーハ空港		ドーハ(機内)
13	7/27 (日)	ドーハ空港～関西航空～名古屋駅		日本

山旅の 4 抛点とトレッキングコース



シャモニー
ブレバントラバ(7/16)
エギュードミディ展望台(7/17)

ツェルマット
ゴルナーグラート展望台(7/18)
ブラウヘルト～スネガトレッкиング(7/19)
ヘルンリ小屋(7/20)

3

4. 思い出の1コマ1コマ

7月16日 移動（ドーハ空港～シャモニー）とプレバン展望台へのトレッキング



乗継移動中のドーハ空港（0時15分）



プラン・プラ中間駅付近



プレバン展望台テラスで乾杯！

7月17日 エギュードミディ展望台&中間駅付近 散策シャモニー観光



シャモニーロープウェイ駅



エギュードミディ展望台にて



観光客用 路面列車が通るよ

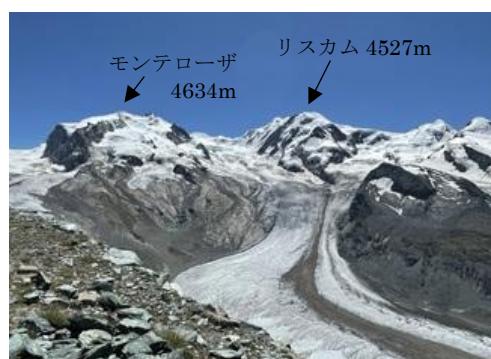
7月18日 移動（シャモニー～ツェルマット）とゴルナーグラートハイキング



セントバーナード犬像（立ち寄った道の駅）



ゴルナーグラート行 列車の車窓から



グレンツ氷河（ゴルナーグラートより）



ハイキング入口



マッターホルンを見ながらの歩行



ツェルマットの街から

7月19日 ブラウヘルト～スネガ トレッキング



朝焼けのマッターホルン



エーデルワイス群落



はるか向こうのマッターホルン

7月20日 ヘルンリ小屋トレッキング



出発してすぐ 前方に池が



計画した登山道と合流



ヘルンリ小屋着 精も根も尽きて

7月21日 午前休息(各自自由行動) &午後ベットマーハルプへ移動



ツェルマットの教会



ベットマーハルプ

7月22日 アレッチ氷河観光



フロウトレイル ヴォルツェンボルド入口



モ～君の歓迎



フィーザルプロープウエイ駅



ベットマーハルプを目指して

7月23日 ユングフラウヨッホ観光



ユングフラウ鉄道の車窓から



アイガー北壁トンネル内の窓 (アイスメール駅) スフィンクス展望台バルコニーから



ユングフラウ 4158m

ロットアルホルン



リベンジのホットココア (嬉しい!)



お見事！氷の彫刻



大賑わい (バックはメンヒ)

7月24日 バッハアルプゼー＆ボルト～グリンデルワルト ハイキング



湖畔の花

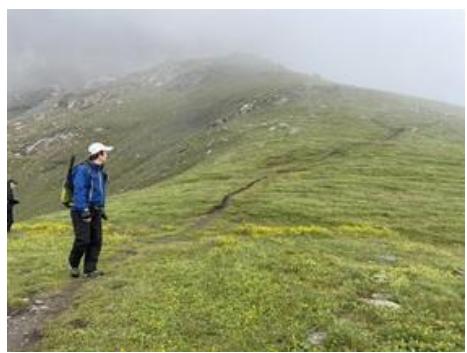


曇り空のハイキング



グリンデルワルトへ向かって

7月25日 アイガートレールトレッキング



ガスの中



壁を見上げて



アルピグレン駅へ登山列車が・・

5. 行動記録

7/16(水) ル・ブレバン展望台 2525mへのトレッキング 晴れ

■ルート：レ・ブラ P⇒ラ・フレジエール～（この間をトレッキング）～プラン・プラ中間駅⇒ル・ブレバン山頂 2525m



■コースタイム レ・ブラ P 11:00⇒ラ・フレジエール 11:30～ピクニック 12:30-13:00～プラン・プラ中間駅 14:00
⇒ル・ブレバン山頂 15:00-15:30⇒シャモニー麓駅 16:00～ホテル 16:30 着

長い空旅を経てやっとジュネーブ空港に到着(7:50)。到着ゲートで当日のガイド※神田さんが出迎えてくれた。神田さんのワゴンでシャモニーへ。ホテルに到着(10:10)し、荷物を預けブレバンに向かって出発。当初はプラン・プラ中間駅からフレジエールに向かってハイキングの計画だったが、神田さんの計らいで、ハイキング後にホテルに直行できる逆コースを設定してくれました。

ルートは花の咲く山腹のトラバースルートをアップダウンを繰り返しながら歩きます。登山道の脇にはブルーベリーが沢山実を付けていて、親子づれの子供たちが楽しそうについばんでいました。ボンジュール♪と挨拶を交わしながら、シャモニーの街を隔てたモンブラン山群を眺めながらのトレッキング。神田さんの説明でドリュ-3754m、グランドジョラス 4208m 北壁・エギュードミディー3842m・雲をまとったモンブラン 4810m 等の名だたる針峰群が連なっている。初日にしては軽めの足慣らしです。途中のお花畠でピクニック（行動食休憩）して、プラン・プラ中間駅まで歩き、ゴンドラでル・ブレバン山頂 2525m まで上がりました。モンブラン山群を眺めてビールで乾杯！ その後、麓駅までゴンドラで下り、道すがらスーパー・マーケットやレストランを紹介してもらい、ホテルに到着(16:30)。あわただしくも、素敵な一日でした。（ゴンドラはモンブランパスを有効利用） 記：町田明美（編集/修）



ピクニック



モンブラン針峰群を背に

※ガイド：神田翔太（シャモニー生まれ、シャモニー育ち）

両親もシャモニーで暮らし、ガイド業をしている。父、神田泰夫は嘗てクライマーとして名を馳せた人。

7/17 (木) エギュードミディ展望台&中間駅付近散策 シャモニー観光 曇りのち晴れ

■ルート：エギュードミディ展望台見学 3842m⇒中間駅～散策（トレッキング）～中間駅⇒シャモニー 午後は市街観光



参加者メンバー L：金子清、町田修、町田明美、藤田勝啓、津田廣一、津田利栄子、上田正博



エギュードゥミディ展望台（モンブランをバックに）

■コースタイム エギュードゥミディ展望台 8:00～(見学)～展望台ロープウェイ 10:15⇒

中間駅 10:30～散策（トレッキング）～中間駅 11:50 発⇒シャモニー（ロープウェイ乗り場）着 12:00

ロープウェイの混雑を避け、早朝にホテルを出発（7:05）。7:15に乗り場へ着くも、早やくも人で一杯。チケットを持っていれば、時間前でもロープウェイに乗車できると聞いて、早速乗り込んだ（7:25発）。中間駅で乗り換えエギュードミディ展望台に8時に到着。展望台に着くと気温が氷点下1°C、防寒具を着て屋外にでる。ガスでモンブランが隠れていたが徐々に見えてくる。珍しい傘雲のかかったモンブランをバックに証拠写真をパチリ。ガラス張りのテラスも恐る恐る体験。イタリア側まで3連ロープウェイで行く予定だったが強風でロープウェイが運休。しばらく様子をみるも、残念ながら運行の兆しすらない。諦めて、展望レストランで休憩後、下る。中間駅で1時間程トレッキングを楽しむ。ホテルに戻り昼食、休憩。昼からはシャモニー市街を観光する。山岳博物館へ行くと改装中だったのでガイドさんお勧めの水晶博物館へ。見応えがあり1時間じっくりと見学した。その後、教会、シャモニー駅を見学。夕食はレストラン（Monchu）で美味しいワインと料理に舌鼓を打って2時間の夕食に堪能した。（記：金子）



ロープウェイ乗り場



エギュードゥミディ展望台



床も壁もガラス張りのテラス



ミニトレッキング（中間駅基点）



ソシュール(左)とバルマ(右)の銅像



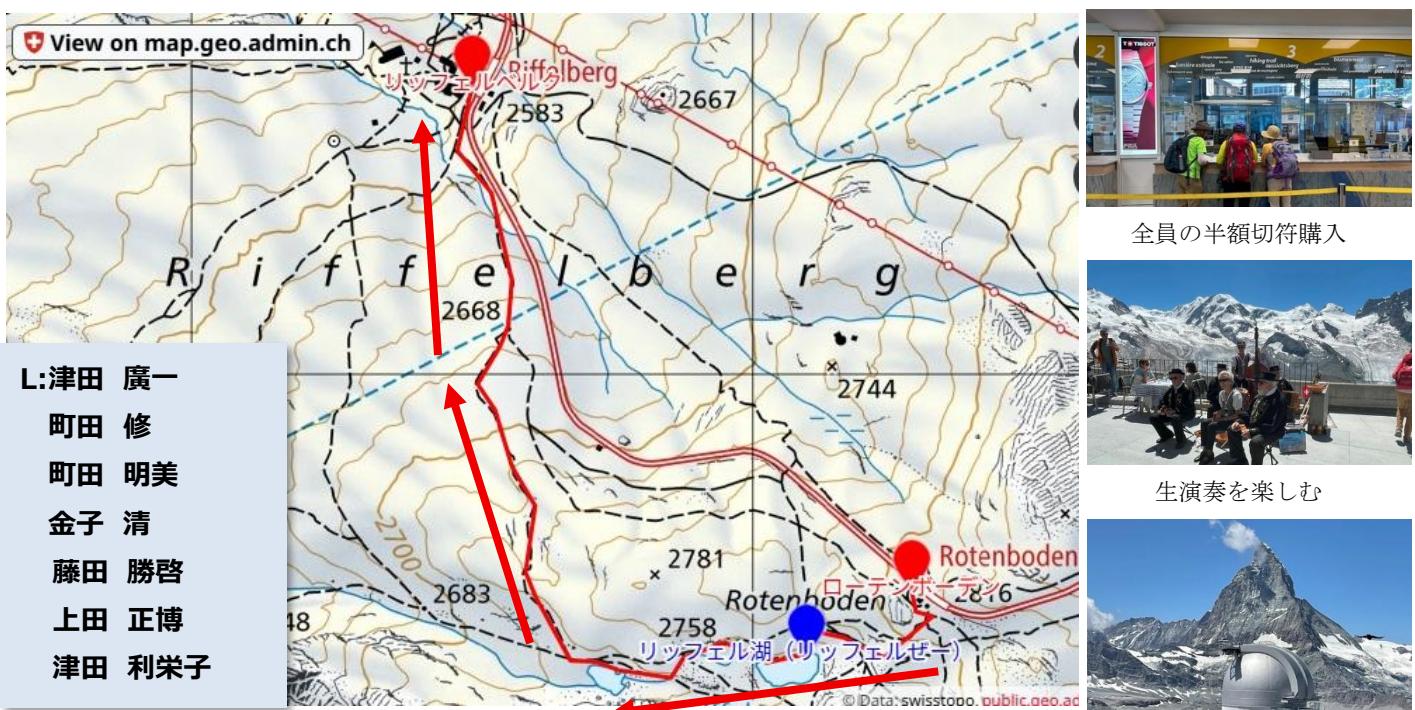
シャモニーの街



レストラン（Monchu）にて

7/18(金) ゴルナーグラートハイキング (晴)

■ルート：ゴルナーグラート展望台 3131m（見学）⇒ ローテンボーデン 2815m～リッフェルベルク 2582m



■コースタイム

ツェルマット発 12:00 ⇒ ゴルナーグラート（展望台見学&昼食 80 分）⇒ ローテンボーデン 14:00～リッフェルゼー 14:10
～ウンターリッフェルゼー 14:25～リッフェルベルク分岐 14:45～リッフェルベルク 15:10 ⇒ ツェルマット 15:52 着

朝食を美味しく頂戴し、お迎えの専用車に 8:30 に乗り込む。快適なドライブを楽しみ、シャモニーからツェルマットへ。荷物をホテルの車へ預け、ゴルナーグラート鉄道でハイキングに出発。ツェルマットの駅でドキドキしながら、3 人で切符を購入し 12 時ジャストに出発。ゴルナーグラート駅着 12:33、早速にゴルナーグラート展望台へ。ホテルの前で山々をバックの生演奏も楽しみ（ラッキー！）、展望台の 360 度の眺望を楽しみながら、行動食で昼食。ゆっくり見学して、ハイキング出発点のローテンボーデン（鉄道で 5 分）へ。

「Alpine Garden」のゲートをくぐって歩き出すも、あまり花は咲いてない（少々ガッカリ）。すぐにリッフェルゼーに着く。期待していた逆さマッターホルンは見られない。少し小さなウンターマッターホルンまで歩を進めてみると、うっすらと逆さマッターホルンが映っていた。しばし、見とれる。小さな湖面を満喫後、リッフェルゼーを目指して歩く。道中、マッターホルンの姿がいつも見えている様に思える。分岐も過ぎて、道が緩やかになってくると、やがて目指すリッフェルベルクが見えてきた。時間が目標タイムも過ぎていた為、皆で相談し、リッフェルアルプ迄歩くのは断念。列車でツェルマットへ向かった。半日の軽ハイキングながら、充実したハイキングであった。

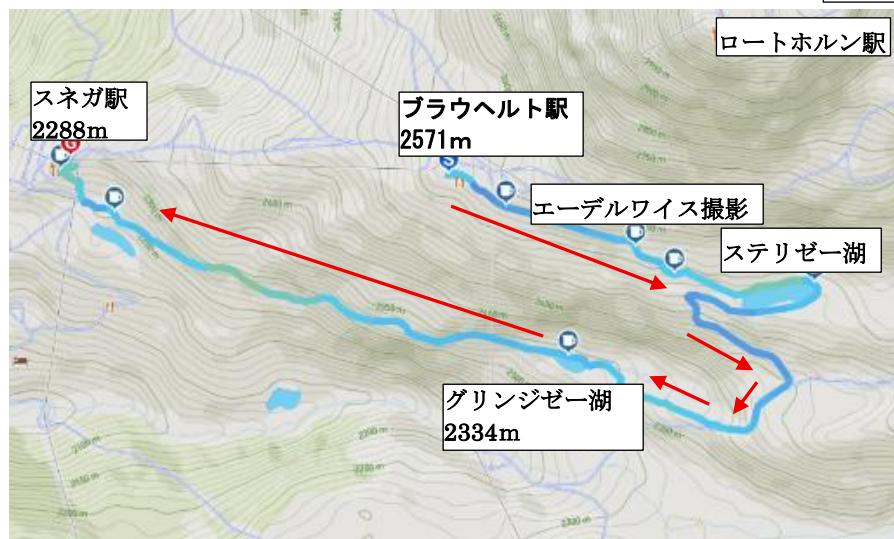
記：津田 廣一



7/19(土) ブラウヘルト～スネガトレッキング 晴れ後曇り、雨

■ルート：ブラウヘルト～ステリゼー湖～グリンジゼー湖～スネガ

参加者 L.藤田勝啓、金子清、上田正博、町田修
町田明美、津田廣一、津田利栄子、ガイド：千葉さん



ブラウヘルト（マッターホルンをバックに）

■コースタイム ツエルマット駅 8:20⇒スネガ駅⇒ブラウヘルト駅 8:40～エーデルワイス群落 9:15

～ステリゼー湖 9:40～グリンジゼー湖 10:30～スネガ駅 11:30⇒ツエルマット駅 12:20

当初の予定はロートホルン駅からオーバーロートホルン 3415mを登山後、スネガ駅までトレッキングの約8時間の行動を考えていたが、ブラウヘルトからロートホルン間のロープウェイが運転休止になったため、急遽、ガイドの千葉さんの助言でブラウヘルト→スネガのトレッキングに変更した。オーバーロートホルン山頂からの360度の展望を楽しみにしていたが仕方ない。

8時ホテルを出発、ツエルマットからスネガ駅を経由しブラウヘルト駅へ。トレッキングの見どころはステリゼー湖やグリンジゼー湖に映る逆さマッターホルンやエーデルワイスなどの高山植物だ。ゆっくり歩いて3時間弱のコースなので登山者モードから写真撮影モードの観光客気分になった。マッターホルンがコース上の色々な場所で見て絵になった。お花畠もたくさん有り、日本の様に立入り禁止がないので写真が撮り易い。エーデルワイス撮影場所あたりで町田君が転倒して膝を打撲した様で少し歩きづらそうだった。スネガ駅まで下ってくると雨が降り出し、雨が強くなった頃、丁度都合よく屋根付きの休憩所の中へ。ベンチに座ってピクニック（行動食を食べる）。小雨になってきたタイミングで休憩所を出て、スネガから地下ケーブルでツエルマットへ戻った。午後は千葉さんに案内してもらい、市内観光。レストランやお土産情報なども教えてもらった。

記：藤田勝啓



ブラウヘルトから見たマッターホルン



ブラウヘルトにて



エーデルワイス撮影地手前



エーデルワイス撮影地にて



逆さマッターホルン（ステリゼー湖にて）



グリンジゼー湖にて

7/20 (日) ヘルンリ小屋往復 曇りのち晴れ

■ルート：ツエルマット⇒トロッケナーシュテック～ヘルンリ小屋～シュヴァルツゼー⇒ツエルマット



参加メンバー C L : 金子清、藤田勝啓、
上田正博、津田廣一、津田利栄子



■コースタイム:ツエルマット(ロープウェイ)9:00発⇒フーリ⇒トロッケナーシュテック 9:20着-9:30発(登山開始)～ヘルンリ小屋 13:25着-13:55発～シュヴァルツゼー(ロープウェイ駅)15:35着-15:45発⇒ツエルマット

⇒電気循環バス 15:55発～ホテル 16:00着 【登山行動時間：6時間】、【距離：11km】

ホテルを8時に出て電気循環バスでロープウェイ乗り場へ(8:30着)。当初の計画はシュヴァルツゼーまでロープウェイで行き、そこからヘルンリ小屋往復だったが、フーリ～シュヴァルツゼー間が強風で運休。とにかく、動いているフーリまで移動。別路線だがフーリからトロッケナーシュテックはロープウェイが動いているとの情報をキャッチ。トロッケナーシュテックからヘルンリ小屋へ向かう様に計画を変更。ロング時間になるが、トロッケナーシュテックからヘルンリ小屋まで登り、下りはシュヴァルツゼー経由でフーリまで歩くことを覚悟した。トロッケナーシュテック9:30出発。強風で上田さんの帽子が吹っ飛んだ。視界が良ければマッターホルン東南壁を眺めながらのハイクだが、ガスの中。2時間程でやっとシュヴァルツゼーからの登山道(分岐)に着く。傾斜が徐々に増して来る。ヘルンリ小屋は見えてはいるが、近づく気配が感じられない。やっと2時間程でヘルンリ小屋に着く。テラス席はロープウェイ運休の影響か人が少ない。せっかくなのでマッターホルン登頂の取付き付近まで足を伸ばす(3名)。帰路、シュヴァルツゼー近くまで下ると運休のはずのロープウェイが動いている。ヤッタ！全員大喜び。勿論、ロープウェイに乗車しツエルマットへ。町田が待つホテルへ戻る。 記：金子 清



トロッケナーシュテック(登山開始)



緩やかな道をヘルンリ小屋へ向う



マッターホルン岩壁取付き付近にて



岩壁に作られた登山道



ヘルンリ小屋直下の急登

7/21(月) 休息（各自ツェルマット観光）&ベットマーハルプへ移動（曇り後晴れ）

午前半日のシュバルツゼーハイキングの予定だったが、町田さんのケガと昨日の疲労回復の為に、皆で相談し各自ツェルマットの自由行動と決定。3グループに分かれての行動となった。午後2時ホテルに全員集合、駅へ向かう。大きな荷物をグリンデルワルト駅へ託送して、身軽なザックでベットマーハルプへ移動した。

(記：津田廣一)

■町田・津田グループ

町田が行きたかったツムット村の方向を目指し、2台の巡回バスを乗り継いで終点まで移動。ここから、ツェルマットを目指しリハビリを兼ねてゆっくりハイキング。4人でのんびりとスイスの里山歩きを楽しんだ。以外にも早く、1時間ほどでツェルマットへ帰ってきた。COOPでサンドイッチを買ってテニスコートで食し、ホテルへ戻った。



羊の放牧 (ツェルマットのゴンドラ駅より)



ハイキングの出発点
バスの終点



雪化粧のマッターホルン
(10時24分撮影)

■金子・上田グループ

ツェルマットの町を2人で散策。教会を見学し、町並みを楽しんだ。もちろんビールも…



ツェルマットの町



教会を見学 (神聖な空間)



古い町並み

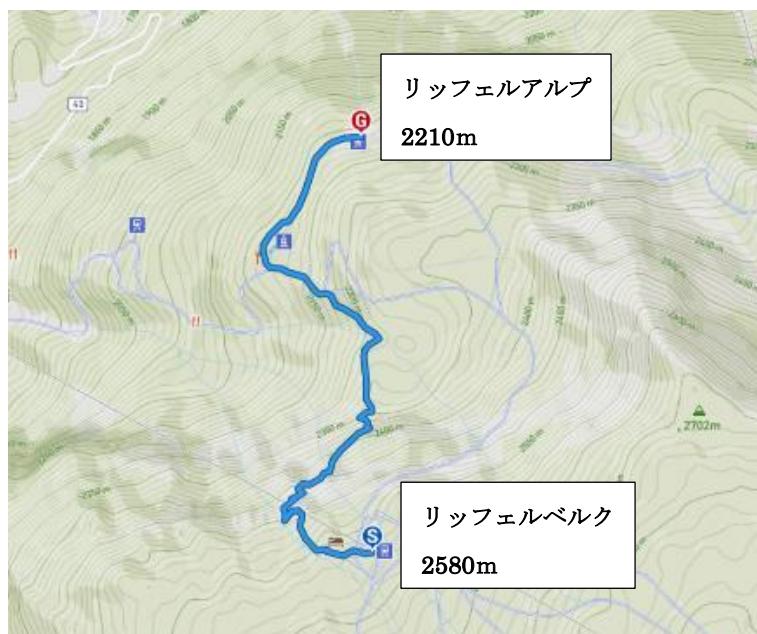


伝統工芸品？



ご褒美のビア

■藤田単独（7/21）リッフェルベルク～リッフェルアルプ間トレッキング（曇り後晴れ）



新雪のマッターホルン

コースタイム：ツェルマット 9:10⇒リッフェルベルク 9:50～リッフェルアルプ 11:50⇒ツェルマット 12:20

午前中の自由時間・・。ふもとの雨は回復して、ホテルのベランダからは新雪をまとったマッターホルンが臨まれた。それなら、7月18日のゴルナグラートトレッキングで歩けなかった後半ルートに行こうと決めた。ツェルマットからゴルナグラート鉄道に乗り、リッフェルベルクで下車する。高曇りの中、マッターホルンには雲が流れていて、見え隠れしている。リッフェルアルプまでの下り道をゆっくり歩き出す。両側にベルクハウスヴォルツ、アメリカナデシコ、アルペンアスターのお花畠が広がるジグザグな急坂を下っていく。マッターホルンをバックにロープウェイのコンビネーションが絵になる。単独行の気軽さもあり、時間を気にせず、しばらくの間、至福の空間で休憩する。マッターホルンを眺めながら下っていくと5つ星のリッフェルアルプリゾートホテルに着く。ホテルと駅を結ぶトロッコ列車の線路沿いに進むと小さな駅に到着する。

（記：藤田勝啓）



リッフェルベルク駅



4000m峰？



マッターホルンとロープウェイ



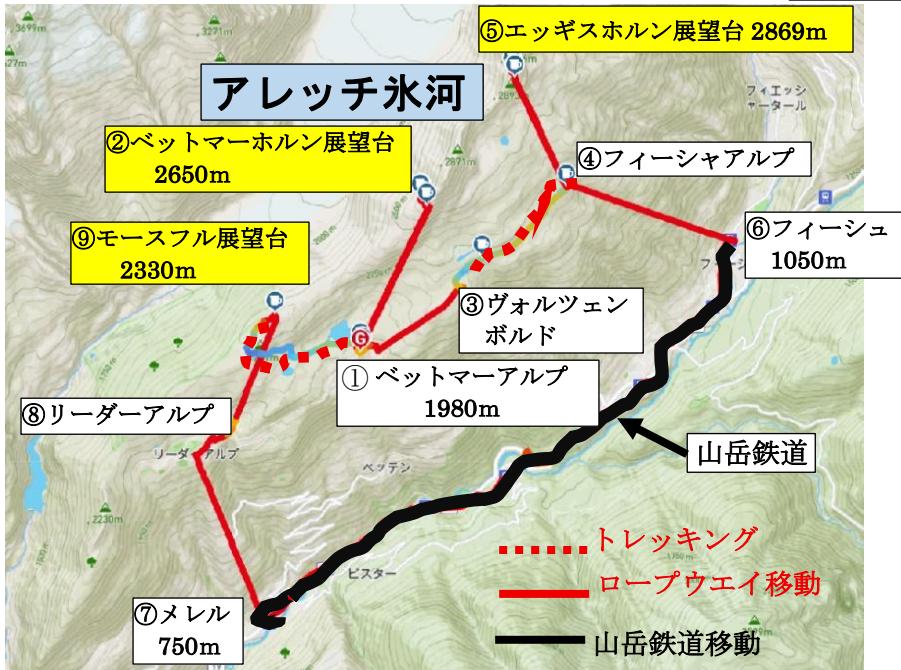
4000m峰？



アルペンアスター



ベルクハウスヴォルツ

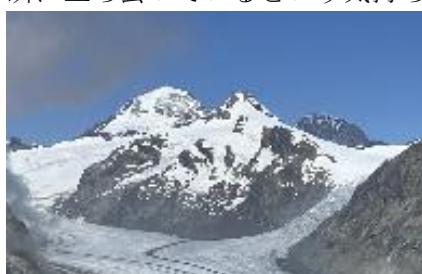


コースタイム：①ベットマーアルプ 9:10⇒②ベットマーホルン 9:30 (展望台散策) ⇒①ベットマーアルプ 10:15⇒③ヴォルツェンボルド 11:10～(トレスキング)～④フィーシャアルプ 12:00⇒⑤エッギスホルン 12:15 (展望台散策) ⇒④フィーシャアルプ⇒⑥フィーシュ 13:00⇒⑦メレル 14:00 (山岳鉄道で移動) ⇒⑧リーダーアルプ 14:20⇒⑨モースフル 14:30 (展望台散策)～(トレスキング)～①ベットマーアルプ 16:00 *移動の基本はロープウェイ8回

以後、藤田単独⇒②ベットマーホルン 16:15 (展望台散策) ⇒①ベットマーアルプ 17:10

当初計画は②ベットマーホルン展望台からアレッチ氷河沿いにトレスキングコースを周回する予定だったが、コースが崖崩れで閉鎖。そこで、ガイドの千葉さんがロープウェイと山岳鉄道を駆使し、3つの展望台を中心にはアレッチ氷河の展望を満喫するコースを考えてくれた。スイストラベルフリーパスを使ったアレッチ氷河展望台の周遊ルートだ。③ヴォルツェンボルド～④フィーシャアルプ間と⑨モースフル～①ベットマーアルプ間は、スイスらしさに溢れたおよそ2時間半のトレスキング。歩行時間は短かったが、ロープウェイでの標高差がトータル4000mもあり、1日の獲得標高差は過去最高だ (YAMAPの行動時間: 8時間、休憩時間: 2時間 登り/下り 4153 / 3977 m、移動距離 33.6km)。アレッチ氷河はアルプス山脈最大の氷河で長さ 23.6 km、面積は 128 平方 km。その中心部は年 180-200m のスピードで前進していて、地球温暖化の影響で 21 世紀中には消滅するだろうといわれている。今回②ベットマーホルン⑤エッギスホルン⑨モースフルの展望台からアレッチ氷河を望んだ。ユングフラウ、メンヒ、アイガーなど 4000m の山頂に囲まれる壮大な世界自然遺産登録の氷河を目の当たりにすると、氷河消失という悠久の歴史の一瞬に立ち会っているという気持ちになった。

記：藤田勝啓



③ヴォルツェンボルド～④フィーシャアルプへ



アレッチホルン ベットマーホルン展望台



⑨モースフル～
①ベットマーアルプへ



マッターホルン ベットマーホルン展望台

7/23(水) ユングフラウヨッホ 晴れ

■ルート：ベットマーハルプ⇒ウェンゲン⇒クライネシャイデック⇒ユングフラウヨッホ⇒グリンデルワルト



■コースタイム: Bettmeralp 8:25 ⇒ Betten 8:47 ⇒ Brig 9:18 ⇒ Spiez 10:05 ⇒ Interlaken Ost 10:34 ⇒

Wengen 11:00 ⇒ Kleine Scheidegg 12:00 ⇒ Jungfraujoch 13:00-14:00 ⇒ Grindelwald 15:30 着

当時は、ウェンゲンからロープウェイでメンリッヒェンに上がり、アイガー北壁を見ながらお花畠をクライネシャイデックまで歩き、電車でグリンデルワルトに向かう予定だった。ところが、グリンデルワルト滞在の2日間、天気が悪いとの判断から急遽、25日の予定を変更し、ウェンゲンからクライネシャイデックまで電車で上がり、そこから登山電車でユングフラウヨッホに行く計画に変更した。

前日にベットマーハルプでガイドの千葉さんにユングフラウヨッホの予約をしてもらい（ユングフラウヨッホは予約が必要）

ウェンゲンでグリンデルワルトまでの切符を買い、ユングフラウヨッホに向かった。この日は電車の乗り換え6回と、あたふたしながらの移動となった。クライネシャイデックに着くとアイガー・メンヒ・ユングフラウの山々が出迎えてくれる。そして周りの草原はお花畠が一面に広がっている。その中をアプト式（ラック&ピニオン）登山電車がアイガーグレッチャーまで登り、そこからアイガーの岩山の中をユングフラウヨッホを目指して登っていく。途中、スフィンクス展望台でアイガー東山稜のミッテルレギルートから初登頂された日本人登山家の槇有恒の記念の小屋も見えた。ユングフラウヨッホからはアレッチ氷河をベットマーハルプとは逆方向から見ることができた。一帯は観光化したアジア系を中心に多くの観光客でぎわっている。ガスの切れ間にアイガーやメンヒの山頂を垣間見た。同ルートをクライネシャイデックまで戻り、グリンデルワルトでツエルマットから託送した荷物を受け取りホテルに着いた。 記：町田 修



アイガーをバックに



アレッチ氷河



氷の回廊

7/24(木) バッハアルプゼー＆ボルト～グリンデルワルト ハイキング (曇り一時雨)

■ルート：フィルスト 2167m～バッハアルプゼー2271m（往復） & ボルト 1570m～グリンデルワルト 1034m



町並みを歩いて駅へ

L: 津田 利栄子

津田 廣一

町田 修

町田 明美

金子 清

藤田 勝啓

上田 正博

ガイド：矢鳴 ゆうじ

グリンデルワルト
ロープウェイ駅



フィルスト駅を出て
行先を確認（掲示板）

■コースタイム

グリンデルワルトホテル発 8:20～ロープウェイ駅 8:35⇒フィルスト展望台 9:00～バッハアルプゼー10:30 (15分)

10:45 発～フィルスト展望台 12:00⇒ボルト 12:10～途中でランチ (13:15～13:30) ～グリンデルワルト 14:30 着

目覚めるも雨。ガイドの矢鳴さんが8時にホテルへ来て打合せになっている。天気予報からフィルストからバッハアルプゼー往復、そしてロープウェイでボルトまで降り、ボルト～グリンデルワルトまでの里山歩きと決定。幸いにも、雨が止んで出発。カッパのお世話にならない様にと祈りつつ、ロープウェイ乗り場へ。真っ白なガスで何も見えず、フィルストへ到着。準備して歩き出す。道の周りは高山植物がいっぱい！日本と違い、保護ロープもなく自由に歩けるのが嬉しい。黄色のキンポウゲ系の花が多いと思っていると、キンポウゲは毒があり牛が食べないとガイドさんから教えてもらった（納得！）。晴れていたら、さぞ素晴らしい景色が楽しめただろう。周りからカウベルの音が聞こえ、近くに牛が放牧されているのが分かる。バッハアルプゼーの池に着いて小休止。天気が崩れる前に戻ろうと、歩き出すもすぐに雨が降り出した。雨と言うより雹だ！全員、急いでカッパを羽織る。私は上着だけを羽織った。新調のゴアテックスパンツが水をはじいて大正解だ！ロープウェイでボルトまで下り、そこからグリンデルワルトまで歩いた。トロッティバイクも同じ道を通り、バイクを楽しむ観光客が駆け抜けていく（少し注意も必要！）。雨が止み、のんびり里山歩きも楽しい。空にハンググライダーが何台も飛んでいる。怪我をした町田さんが、私達がついて行けない猛スピードで下ってしまった（本当に治ったの？）。あっという間に着いてしまった。 記：津田 利栄子



曇り空の下、歩きます



花、花、花 花はいっぱいです



放牧の牛がいっぱい



バッハアルプゼー



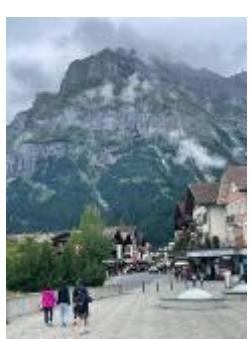
クリフウォークにてパチリ！



ボルトからのハイキング途中で



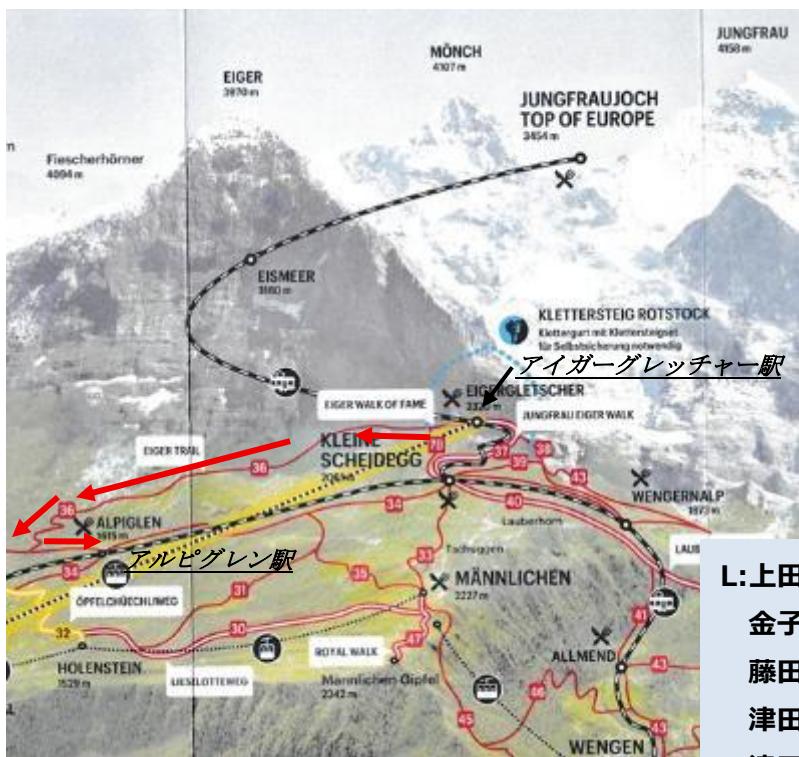
かすかに氷河が・・



グリンデルワルトへ
下りて来ました

7/25(金) アイガートレール トレッキング (曇り)

■ルート：アイガーグレッチャー2320m～アルピグレン 1616m



L:上田 正博
金子 清
藤田 勝啓
津田 廣一
津田 利栄子

■コースタイム

アイガーグレッチャー駅 9:00 発～アイガー北壁標識 1本 9:30～9:45～途中 1本 10:35～10:55～アルピグレン 11:30

ホテルを 8 時出発、グリンデルワルト駅から列車を 1 駅乗り、ターミナル駅からアイガーエクスプレス（2020 年 12 月開通の大型ゴンドラ）で、アイガーグレッチャー駅に 8：35 到着。途中はガスの中で何も見えず、少し心配になった。アイガーは、ベルナーアルプスの一峰でその北壁は、アルプス三代北壁の一つで 1800 メートルの絶壁[死の壁]と呼ばれている。アイガートレールはアイガーグレッチャー駅(2320m)からアルピグレン駅(1616m)までのトレッキングコース。駅から北壁直下に回り込みアイガートレールの看板を確認しスタート。取付きに歴代登頂者のレリーフや手形が展示しており、日本人の北壁ルートを開いた加藤滝男、今井通子ら 5 人の登山家のレリーフも有った。コースは右手に北壁を見あげながら岩場やガレ場を下って行く。北壁に沿って歩いていく途中、北壁登攀への洞窟や氷河の溶けた水で岩盤を削って流れる滝や氷穴などを見る事ができた。又、高山植物も多く、初めて見る花々が沢山観察出来た。やがて左手に草原が開けスイスらしい景観も楽しめた。ジグザグのコースを下っていくとアルピグレン駅が見えてきた。駅の手前で見晴らしの良いレストランベンチを発見。時間に余裕もあり、木陰のベンチで地ビールを楽しみ談笑。アプト式のユングフラウ鉄道の列車が急斜面をゆっくり下ってきた。アルピグレン駅で 12：45 に乗り、車窓を楽しみながらグリンデルワルト駅に 13 時に到着。雨にも降られず楽しいトレッキングとなった。

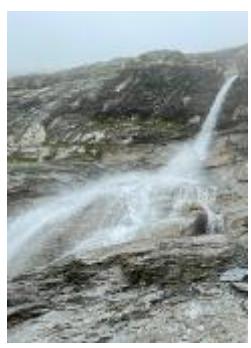
記：上田 正博



アイガー北壁（山頂はガスで見えず）



氷穴の前で



勢いある滝



アプト式列車が来る

7/25(金) メインリッヒからクライネシャイデックまで 曇り

■ルート：グリンデルワルトターミナル⇒メンリッヒエン 2227m～ クライネシャイデック 1873m⇒グリンデルワルト 1034m



L: 町田 修
町田 明美



■コースタイム

グリンデルワルトターミナル 8:20 発⇒メンリッヒエン 8:50～クライネシャイデック 10:30⇒グリンデルワルト 11:30 着

アイガートレイルに行くメンバーとグリンデルワルトターミナルで別れ、ロープウェイでメンリッヒエンに向かう。

15年前、夫婦でクライネシャイデックからメンリッヒエンまでお花畠の中を彷徨い歩いた（登山道に気づかなかったのだ！）。まさか、その逆コースを歩こうとは思ってもいなかった。しかし、アイガートレイルを歩ける足ではない（ケガ報告参照）から、その分アイガーノルト壁を見ながらゆっくり楽しもうと気持ちを切り替えメンリッヒエンをスタートした。しっかり登山道が整っている。天気予報に違わず上部はガスの中！ アイガーノルト壁は雲の中！ しかし、足元を見ればなんと素晴らしい、高山植物が一面に広がっている。昨日、ガイドの矢鳴さんが教えてくれたけど、これらの草花はすべて牛の餌になる。この草花を食べたことが乳牛のブランドにつながっているらしい。写真を撮りながらゆっくりクライネシャイデックに向かった。そして、電車でグリンデルワルトに帰った。 記：町田 修



このガスの上にアイガーノルト壁が…！



放牧の牛たちはゆっくり草を食べている

6. 特別寄稿

スイスの山旅を終えて

2025.08.15 町田 修

スイスの山旅は、エージェント探しから始まった。我々のスイスへの想いはメジャーなトレッキングを「シャモニー（フランス）」「ツェルマット」「グリンデルワルト」の3拠点で行い、王道ルートでスイスの素晴らしさを脳裏に焼き付ける考えだ。この想いを叶え、JP出国から帰国まで寄り添い、日々の天候変化や状況変化に柔軟に対応してくれるエージェントをスイス・ヨーロッパが得意な3社に絞った。さらにQDCSで細かく評価判断し、「Let's SWISS」千葉代表を選定した。

Let'sは上記王道プランプラス、オーバーツーリズムの喧騒から離れた「ベットマーハルプ」を紹介してくれた。まさに本当のスイスらしい静かな村です。これでベースの4拠点が決まり、拠点ごとの詳細な計画に落とし込んでいく。見知らぬ地での案内役と情報源として、拠点ごとに一日ガイドを依頼した。これで、スイスの山旅の大きなイメージが出来上がったのです。

後は移動手段と食事をどうするか？だ。まず、スイスへの往復は中部圏の我々に便利な閑空離発着のカタール航空を用意してもらった。閑空、名古屋間はカタール航空専用バスが運んでくれる。スイス国内の4拠点移動はLet's手配の車と列車移動になる。この列車移動が中々手ごわい。駅の窓口で行き先を告げ、ハーフパス（特割パス／Let's手配）を示し、人数を告げ、切符を買う。通訳担当の津田利栄子さんが大活躍した。この動きは列車に限らず、ゴンドラやテレキャビン乗車時のチケット購入にも有効だった。次は食事！スイスは物価が高く、料理の評判も高くない。我々は拠点ごとに、せめて一回はレストランでの外食とし、後はスーパー（スイスはCOOPが主流）での買い出しと、JPからの持ち込み食材とし、昼食も行動食（ピクニック）中心とした。この食糧計画を金子さんが立案してくれた。上手く機能した。

このように、手作りのトレッキングプランと、添乗員なしの移動と、現地調達の食材で波乱万丈の旅を楽しく堪能した。

きっと、メンバーは忘れられない山旅のシーンを、このスイストレッキングの至る所で味わい楽しんで、脳裏に深く刻んだことと思う。

- ・シャモニーのエギュードミディからレンズ雲の合間に
山頂を見せたモンブラン！
- ・ツェルマットのホテルの部屋から見た、刻々とオレンジ色に染まる
モルゲンロートのマッターホルン！
- ・ベットマーハルプのピークから見たアレッチ氷河の壮大な眺め！
- ・グリンデルワルトのトレッキング中に瞬時に顔を見せた
アイガー北壁の記憶！
- ・トレッキング中の至る所に、今が盛りと咲き誇っていた草花たち！
藤田さんが上手に写真に収めてくれました。

詳細は日々の行動記録と写真に落とし込み、報告書として
展開します。お楽しみに！

最後に、計画づくりと担当任務を積極的に動いてくれたメンバーに感謝します。

さらに、計画段階から山旅の折々にまでアドバイスを頂いた鈴木浩子さんにも感謝します。

そして、旅に寄り添い日々適切なアドバイスを出してくれたLet's SWISSの千葉さんにお礼を申し上げます。



ヨーロッパアルプスで出会った花々

(2025年7月16日～25日)

藤田勝啓

田中澄江さんはエッセイ「ヨーロッパアルプスの花の旅」の中で（ヨーロッパアルプスには、どんな高山植物が咲いているだろうか。…（略）とにかく量が多い。しかし種類は北から南まで幅のある日本の方が多いと思う。）と述べられているので、果たしてどちらが多いのかインターネットなどで調べてみると、日本の山には高山植物が1000種類、ヨーロッパアルプスには高山植物が600種類とも1500種類とも記述されていて、結局どちらが多いかは分からなかった。今回の山旅で見ることが出来そうな花を図鑑で調べて出かけた。アルプスの三大名花「エーデルワイス」「アルペンローゼ」「エンツイアン」は白、赤、青の彩りでは非見たいと思っていたが、幸運にも見ることが出来た。特にエーデルワイスはハリウッド映画「サウンドオブミュージック」の挿入歌で一躍その名前が有名になったが、現在、山で観るのは難しい様である。我々はスネガエリアのハイキングで千葉さんのガイドでコースから外れた秘密の場所で対面出来た。



エーデルワイス



アルペンローゼ（ラベンダー）



エンツイアン（リンドウ）

アルプス山脈はユーラシアプレートがアフリカプレートに衝突して、海底を隆起させて石灰岩などから形成された。氷河から流れる水はカルシウムで濁り、植生にも影響を与えている。日本では伊吹山や鈴鹿山脈が石灰岩質の山なので植生が似ていると感じた。ホタルブクロ、ウメバチソウ、イブキジャコウソウ、アキノキリンソウ、イブキボウフウなど馴染みの花々も散見できた。

今回のトレッキングは9日間で、花の写真を400枚程撮影した。同種類の写真が多いが70種程の名前を確認したのでその中から紹介する。

7月16日 ブレバン展望台



スカビオーゼ（マツムシソウ）



ジギタリス



イブキボウフウ



セイヨウオトギリソウ



フランスギク（オックスアイディジー）



イブキジャコウソウ

7月17日 エギュードミディ



イワシャジン



クーゲリゲ・トイフェルクラーレ(悪魔の爪)



アデノスチレス・アリアリアエ



ディアンサス(ナデシコ)



キンロバイ



ムラサキツメクサ

7月18日 ゴルナグラード展望台



ワタスゲ



ベルクハウスマルツ



レッドキャンピオン(ナデシコ)



ホソバツメクサ



オキナグサ



セイヨウノコギリソウ

7月19日 スネガエリア



アルペンアスター



クモノスパンダイソウ



ベンステモン（ツリガネヤナギ）



エーデルワイス



ベルクローゼ



アキノキリンソウ

7月20日 ヘレンリ小屋往復



エーデルワイス（栽培）



ゲンツイアン（リンドウ）



コケマンテマ



セラスチウム



ラナンキュラスグラキアリス



ガリウムサルタタイル

7月 21日 リュッヘンベルク



アメリカナデシコ



イワギキョウ



オキシロロビックスカンペストリス



ウメバチソウ



タカネシオガマ



ワスレナグサ

7月 22日 アレッチ氷河



シラタマソウ



トロールブルーメ



カワラナデシコ



セイヨウミヤコグサ



エンドイブハビヒトクラウト



ヤナギラン

7月24日 フィルスト展望台



ジャコウアオイ



トリカブト



オクエゾガラガラ



クマノアツメクサ



ゼラニウムフラセンタ

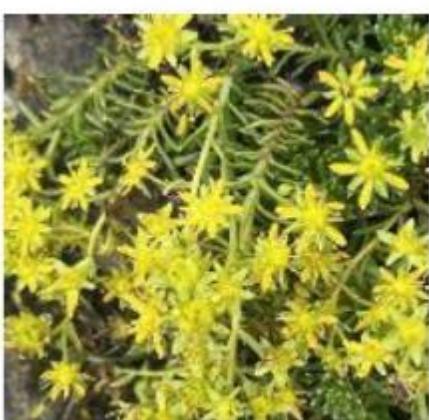


ミミナグサ

7月25日 アイガートレール



チョウノスケソウ



マツバトウダイ



キンポウゲ



テガタチドリ

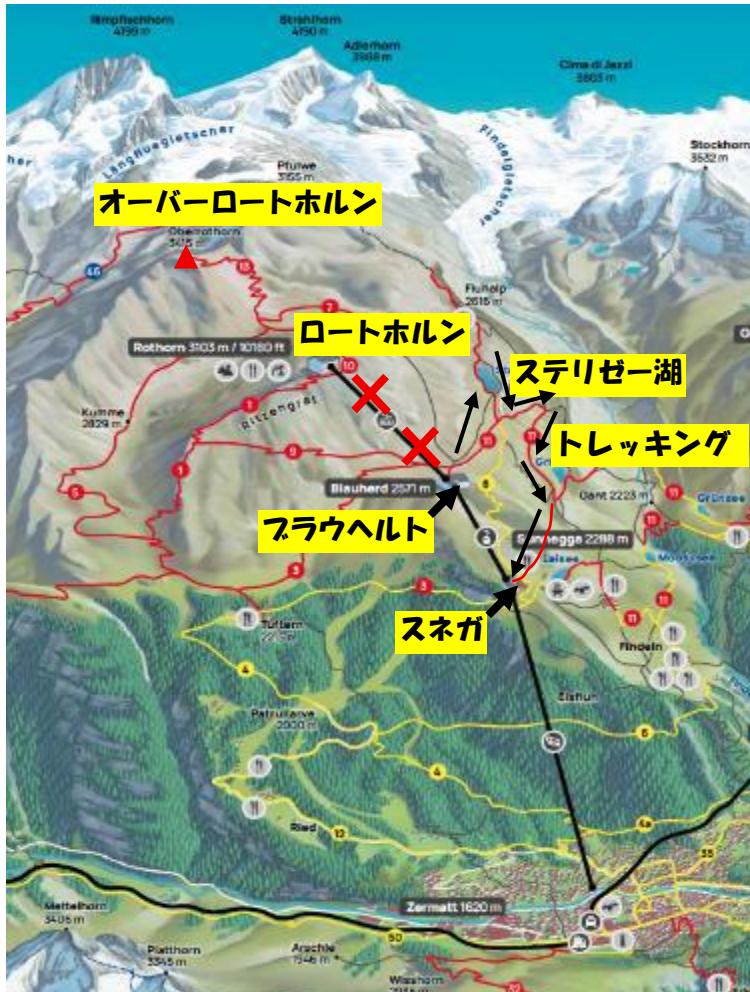


ホタルブクロ



アルペンローゼ

- ◆ 当日の計画→ブラウヘルトからロートホルンへのゴンドラが不稼働のため、オーバーロートホルンへの登頂を中止し、ブラウヘルト周辺の湖周遊トレッキングに計画を変更した。当日は Lets Swiss 代表（千葉さん）が、ガイドで案内してくれた。



発生日時 : 7/19 (土) 9:15ごろ
 発生場所 : ブラウヘルトからステリゼー湖へ向かう登山道。
 怪我状況 : でっぱつた岩に左足を引っ掛け、右肩から転んだ。その際右肩と左膝を強打した。左膝が若干痛かったが、トレッキングポールで歩けたので行動した。雨天によりスネガからゴンドラで下山した。
 症状 : 当日、ホテルへ戻った後、左膝が大きく腫れ、可動範囲がせまくなり、歩行が若干困難になった。
 事後対応 : 千葉さん(Lets Swiss 代表)に症状を連絡し、アドバイスと対応を依頼する。ツエルマットの病院に予約を入れ、通訳(ドイツ語)の手配をしてもらった。
 具体的対応 : 7/20(日) ツエルマットの病院で診察を受け、その診断結果で以後の計画対応を判断することにした。診察には千葉さんの知人(ツエルマット在住)が通訳&付き添いしてくれた。診察はレントゲンと触診と可動域の確認と力の入り具合を確認した。

処置は内出血の血を抜き、骨と筋に異常が無いことから、緊急性は無いと判断され、痛くない程度の歩行ならOK!との診断をもらった(膝を固定するサポーターと痛み止めの薬を処方された)。

※尚、内出血の原因が特定できないので帰国後、再検査のアドバイスをもらった。

- ◆ 帰国後対応 : 8/4 (月) 主治医より、藤田医科大学病院 整形外科(膝専門医／早川教授)を紹介していただき、MRIとレントゲンでの診察結果、左膝の皿骨折と診断され「骨がくつ付きまで、おとなしくするように!」と言われた。
 (約3ヶ月ぐらいで、骨がくつ付き、6ヶ月ぐらいはおとなしく!)

- ◆ 発生原因 : 安心できるガイドと、のんびりトレッキングの安堵感で、ほとんど緊張感のない状態で歩いており、登山道の凹凸に注意力のない漫然とした歩行が原因と考える。同行のメンバーと千葉さんには大変な心配と迷惑をかけたが、従来の強いメンバーシップと適切な判断でサポートしていただき、計画の変更もなく無事帰国でき、大変有難く、感謝しています。

弥次喜多道中になるかも？と思っていたが、案の定多くの問題が発生し、ピンチの連続の山旅だった。今後の参考の為にも、3つ程、私の印象に残った面白い場面を紹介しておこうと思う。

1. 「水捨てろ！」事件

長い長い空旅を終えてジュネーブ空港に到着し、出口を探していた時の事。先頭の町田がチケットを空港職員と思えたおじさんに見せ示された方向に歩いて行くと、係員から「水を捨てろ！」と言われた。皆、素直に飛行機内でもらった水を捨てている。「ナヌ？？」と思いつつ、仕方なく捨てると「荷物を検査に通せ」と言われた。思わず、妻が「We just arrived here!」と叫んだ。係員が事態を把握した様で、「あっちへ行け！」チケットを見たおじさん職員は、行先の確認なしで乗継（トランジット）ゲートを示したものと思われる。到着時のチケットは使用済であり、“チケットを見せる=これから出発”と判断したのだろう。（ドーハ空港での乗継時は、チケットを見せ、どこへ行けばいいか？教えてもらえた。この成功体験が影響か？）

おかげで、自分用土産のスイス製水筒を入手出来た（笑）



【教訓】使用済チケットは見せてはいけない。おかしいと思ったら、『なんでや？なんで水捨てなあかんのや！』と叫ぶべき（“Why?”と思ったら、理由を聞く・確認することが大事）

2. 親切なホテルのお姉さんが、翌日、冷たくなった事件

ベットマーハルプのホテルでのチェックアウト日の朝食時の話。7時半からの予定で、少し早く会場へ行った時、他のパーティは、既に会場で食事中にも関わらず、従業員のお姉さんから「開始時間前だから・・」という理由で会場へ入れてもらえず冷たくあしらわれた。開始時間になんでも案内すらしてくれない。さすがに7時半を過ぎたので会場へは入れたが、バイキングの食材が少なくなっているのに補充すらしてくれない。

“こりや、何だ？？？” 昨夜も、その前の日も笑顔で親切な対応だったので、その違いに戸惑った。

後日、「妻と2人でなんでだろう？」と話していくて合点がいった。前日の夕食時、クレジットでなくキャッシュ支払いをした時のお釣りを、全部もらっちゃった事が原因か？と思う。スイスはチップ不要と聞いてはいたが、小さいコインは残すべきだった。この事で、彼女の機嫌を損ねて“やってらんね～”となったと推測。

【教訓】ホテルのレストランでは、お釣りのコインはチップ代わりに残すべき（コインは交換もできず、空港内のショップでも使えないのだから） クレジット払いの方が良かったかな（チップ問題発生せず）
＊レストランチップに関するレッツスイス千葉さんのアドバイスを読んで理解しておくべきだった

3. スープ回し飲み事件

グリンデルワルトの最終日の夕食を、ガイドの矢鳴さんから紹介してもらったレストランでした時の話。先ずは、男連中はビールを、女性はアイスティーを注文。各単品メニューの量が多そうなので、シェアして食べる事になったのだが、女性2人はスイスに来てから食していないとスープを注文。いざスープが運ばれてきたが、スープは分けようがないと思うのだが、スープを頼んでいない男連中が、いきなりの回し飲みを始めた。“えー！”と思ったが、時すでに遅し。“気持ち悪いな～”と思いつつ、スプーン一杯を口に流し込んだ！女性陣は、どう思つただろうか？

後から思うに、スープは注文を増やして、シェアするにしても2~3人に1つぐらいは注文し、分け皿をもらうべきだったな～ 他のメニューについても、7人1グループでなく、2グループに分けて注文すべきだった（最後の方に回って来た時には、ほとんどない状態だった）。後悔、先に立たず！

【教訓】シェア出来るものと出来ないものがある。常識を持って行動したい。オーダーする時に、そのお店のお薦め（各メニューの注文数等）を確認した方がよかつた（最初のシャモニレストランでやった様に）。

7. 参加者の所見と感想

〈金子 清〉

3年前(2022年8月)、このメンバーでモンブラン登山とスイスアルプストレッキングを計画したが、ヨーロッパの猛暑の影響で登山ルートに落石が多発しており（死者もでている）、出発3週間前にツアー会社から「フランス政府とガイド協会から登山中止になっている」と連絡があり、急遽ツアーを中止にした。

その後、メンバーでリベンジも含め検討したが結論は危険性の高いモンブラン登山を断念し、スイスアルプストレッキングに変更を決めた。おやじの山旅10周年記念を兼ねて今年（2025年7月）実行した。

中味はツアー会社に全てお任せではなく、我々の行きたいところをベースにツアー会社のアドバイスを加え立案した。役割分担は、個性的なメンバーが長年培った経験、スキルを生かし適材適所で活躍できるように決定した。

又、プロセスを大事にし、月一の打合せ、ガイドの千葉様に刈谷までお越しいただき説明会開催（意見交換）、出発一週間前に高所順応のための木曽駒ヶ岳登山など行い本番に臨んだ。

現地では好天に恵まれ、スイスアルプスを満喫することができた。リーダーを始め、素敵なメンバーに感謝したい。車窓からみる風景、歩きながら見えるアルプスの山々・氷河・高山植物、各拠点でのガイドさんお勧めのレストランでの楽しい食事、毎日通ったC o o p（現地のスーパー）で買う美味しい缶ビール、孫娘に買ったベアのぬいぐるみ、自分へのご褒美のスイスワイン、マグカップのお土産、すべてが満足だった。

記憶に残る素敵なスイスの山旅となった。

〈町田 明美〉

大変おもしろい旅を体験できました。

ツアーでは味わえない、空港・駅など移動時の緊張と不安と安堵です。スイスの観光立国を多々感じました。スイスは安全な国です。又、交通機関の良さ、鉄道とロープウェイ、会社が違っても目的地までチケットが買え、とんでもない所までアクセスできる（例えば、ベットマーラップのロープウェイで数回往復と鉄道でつないだ、アレッチ氷河を何回か見た時）それと、電車の行き先パネルも安心でした。

かつて日本でも国鉄が提供していた「チッキ」のサービスが現在のスイスにある。ガソリン車の乗り入れを禁止している街が、この交通網を守っているのでは、と思いました。トレッキングでは登山道の良さと多さ、それとトイレも多くきれいでした。

グリンデルワルトでは家を建てるにも制限が有って、景観を守っているという。自然を観光資源として、人々がそれを守って観光産業が成り立っていると思いました。日本も経済面だけで観光を考えないで欲しいと思いました。

私は今回はただ付いて行くだけで、お世話になりました。これに懲りず、また誘ってください。ありがとうございました。

〈津田 利栄子〉

スイスの山旅に参加させて頂き、ありがとうございました。

私にとって初めての事が多く、“エーッ!!”と思う事も多々ありましたが、その時その時に最良と思われる選択で、無事に旅を終える事が出来たのは、この仲間なればかな？と思います。いつも皆さんのやさしさに助けられ、連れて行ってもらっている私にも、今回は何か？できる事があるかも？と思っていましたが…やはり…力不足を感じ、戻ってからしばらく落ち込みました（今も少し引きずっています）。

でも、スイスの山々、風景、空気等、その中に連れて行ってもらえた事は、本当にすばらしく、楽しい時間であり、私にとってかけがえのない経験になりました。今、主人と出来れば又、スイスに行きたいね!!と話をします。レッツスイスの千葉さんの細やかなサポートがあれば、私達でも行けるかも？と思っています。今は、ただ、ただ、皆さんに感謝です。本当にありがとうございました。

＜上田 正博＞

おやじの山旅も 10 年目を迎え、今年はスイスの山をガイドも最小限で自分達でルート企画をしたトレッキングを楽しみました（レツツイスの力は借りましたが・・）。関西空港からドーハを経て、ジュネーブまで飛び、車でシャモニへ移動した。スキーのメッカ シャモニの夏は、緑に囲まれ窓辺には花が飾られ た美しい憧れの街でした。岩峰エギュードミディ(3842m)までロープウェイで上り、モンブランの雄姿を見る事ができた。次にツエルマットまで移動して、マッターホルンのトレッキングを楽しんだ。町はガソリン車の乗入れを禁じており電気自動車や電気自転車が移動の手段となっていて、静かで落ち着いた街並みであった。街の中心を流れる川は氷河の石灰分で白く濁っていた。朝はマッターホルンの朝焼け、雨が降れば雪化粧、湖には逆さマッターホルンが映り、多様な姿を見ることができ、満喫できました。山麓では自然に咲くエーデルワイスを発見でき感動しました。次に山間の小さなりゾート ベットマーハルプへ移動してスイス最大のアレッジ氷河を見て回ったが、温暖化で年々氷河が溶け出して被害も出ていると聞き環境問題を目の当たりにした。最後にグリンデルワルトまで移動して、登山電車を乗り継ぎユングフラウヨッホまで登った。山頂までのトンネルは人の手で堀始め、100 年以上をかけて現在の形になったことを聞き、ただただその執念に驚くばかりであった。その後、アイガー北壁のトレッキングをしながらこの岸壁を登った人間の雄姿に驚くばかりです。今までパンフレットでしか見たことのないスイスの山々を好天にも恵まれ、この目で見ることができた感動は忘れることができません。これも、10 年間に及ぶ山の仲間と共に登れたことに深く感謝しています。皆さんありがとうございました。

＜津田 廣一＞

3 年前のモンブラン登山が中止となり、“年齢的にも無理だな～”と断念。10 周年記念で、仲間とトレッキングと名峰を見に行こうとなって準備に取り掛かった。紆余曲折を経て、花の多い 7 月に決行。旅行中も色々とトラブルが発生したが、都度、話し合い、協力しあい、その時の条件下で 100% 楽しむ事が出来たと思っている。仲間たちとの絆もいっそう強くなった感がする。スイス、改めて好きになりました。妻とも、「又、行きたいね～」と言ってます（実現できるか？ どうか？ は分かりませんが・・）。

良かった事

1. エギュードミディ展望台にて、傘雲がかかるもモンブラン山頂が一瞬でも見えたこと
2. ツエルマットからのトレッキングは天候に恵まれ、マッターホルンを中心とした絶景を堪能できた
3. 強風でロープウェイ運休の中、予定コース変更してでもヘルンリ小屋まで行けたこと
4. ベットマーハルプからロープウェイと山岳鉄道をフル活用、アレッジ氷河を上部～下部まで全体を見る事が出来たこと
(氷河トレッキングが登山道閉鎖で出来ずも、より深く知ることが出来た)
5. ユングフラウヨッホは 25 年前とガリと変わっていて素晴らしい観光地になっていて吃驚！

残念だった事

1. エギュードミディ展望台からイタリア側への空中ゴンドラが、風で運休の為、乗れなかったこと
2. バッハアルプゼー～ブスアルプ間のトレッキングが天候悪く、中止となったこと

【編集後記】

日本と違って土地感がなく、担当の皆さんからの報告原案を理解するのに時間がかかり、編集作業がスムーズに進まなかった。発行が遅くなり、申し訳なかったです。私なりに、読者の方にも理解してもらえる様に編集したつもりです。おやじの 10 周年の記念の山旅です。読んで楽しんで頂ければ幸いです。